

先人の心で 舞う

～詩舞サークル～



詩舞サークルのみなさん

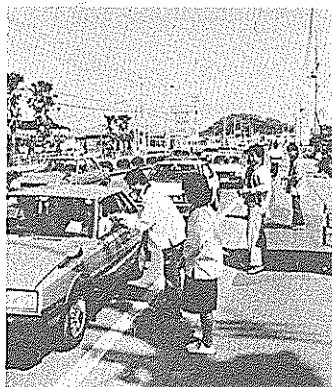
八年前 南国市文化推進協議会
の中で、ささやかだった舞台部門
に、生まれた詩舞サークル。発足
当時は十五名の会員も、現在七
名(全て女性、うち子ども二名)
でやや沈滞気味です。
吟詠に合わせ、扇を持ち、詩に
うたわれた先哲の心を勇壮にまた
物悲しく、舞に表現する詩舞。一
つ一つの所作に心の内を表現する
ことはとても難しいことですが、
またそこに楽しさもあり魅力もあ
るようです。
指導している井上実子さんは、
「お年寄りには健康保持に、子ど

「ほうき」を守って

もたちには情操教育に、礼儀作法
も身に着き行儀が良くなります。
若い人も、もっと参加して欲しい
。とのこと。
あなたも、日本の心を伝える伝
統芸能に目を向け、参加してみま
せんか。
会員の方のひと言
○農業をしています、年もとり
腰が曲がらんように頑張っていま
す。(大畑 浜田さん)
○以前、日本舞踊をしていました
が、日舞より小動きが少なく、詩
舞には「静」の魅力があります。
(大畑 山岡さん)

安全運転

で配りました。
「法規を守って安全運転してく
ださい。お気をつけて」
とやさしく声をかける
と、ドライバーもニッ
コリ。「ミニほうき」
をもらってうれしそう
な子どもに、「ありが
とう」と言われて団員
もニッコリ。約二百個
用意していたほうきの
お守りは、一時間半で
品切れになりました。



安全運転を呼びかける団員たち

○何よりも、健康が第一と思っ
て続けています。
(赤岡町 高木さん)
○詩吟をやっていた関係で、推
められ始めました。宴席でも役立ち
またおうちこちよいな性格が直
ると思いましたが、それは無理で
した。(物部 中村さん)
○小学一年生の時、何か習い事と
思っ始めました。お花も習って
いますが、踊りはとても楽しいで
す。(日章小 北村まりちゃん)



ご家庭で話し合っ
て下さい。答えは、この広報に出
ています。

■もんだい・空港拡張工事に伴
う民家防音工事は○百○十○戸
が対象になりました。

■しめきり・5月15日

■おくり先・〒783 南国市
大畑甲二二〇一 南国市役所内
広報委員会親子クイズ係

■答えのハガキには必ず、住所
部番号・氏名・年齢・職業を書
いてください。

■賞品・特賞千円〽三人、残念
賞(記念品)〽五人

第126回正解発表表(敬称略
(応募総数33通)

■こたえ・④月〽〇〇日

■特賞・千円〽三人
山本行美(小窓)

小松秀行(岡豊町)

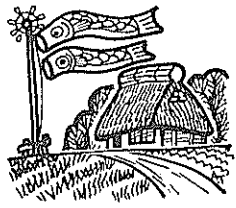
田内トキミ(片山)

■残念賞・記念品〽五人
田中文留(東崎)和田香(物部)

本川千津(岡豊町)小松博子(稲
生 浜田由香(大畑)

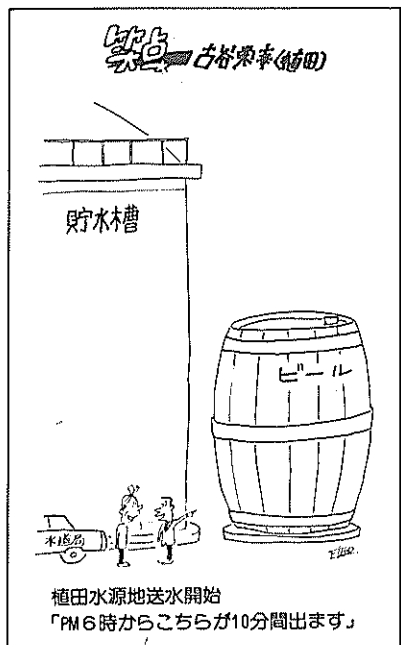
警察に対する要望や 悩みごとはお気軽に

警察は、皆さんの日常生活の安
全と平穏を守り、明るく住み良い
地域社会を作るため、犯罪の予防
活動や警戒活動を昼夜の別なく行
っています。
家庭訪問をした警察官や最寄り
の派出所、駐在所に、警察に対す
る要望や意見はもちろんのこと、



困りごと、悩みごとなどについて
もお気軽に申し出て下さい。
具体的には
○発生した犯罪や事故の早期解決
あるいは発生が予想される犯罪や
事故の予防についての要望・意見。
○交通安全施設の設置や悪質な運
転者の取締まりについての要望。
○子どもの非行など他人に相談で
きないこと。
○このほか、公害や暴力、覚せい
剤の問題など。
現在、地域の皆さんと意見交換
や話し合いの機会を積極的に求め
ています。住民の皆さんのご協力
をお願いします。
【南国警察署】

農地転用などの手続きは早めに 締め切りは毎月20日



農地法に基づく許可申請などの
受付締め切り日は、毎月二十五日
までとなっていますが、事務処
理の関係で昭和五十七年四月分よ
り毎月二十日になりましたので、
お早めに手続きをしてください。
■許可申請等の内容
○農地法三条 所有権移転
○農地法四 転用
○農地法五 転用のための所

無料英会話

場所：国鉄後免駅東、森美東隣(東崎)
時間：月曜日 6:00～7:00
木曜日 5:00～5:45(子ども対象)
6:00～7:00
連絡先：☎1248 末日聖徒イエス・
キリスト教会まで。

南国歌壇

肌さむき日をかさねつつこの春の
牡丹の花ひさしく保つ
西野田 吉川定子
北の山に芝生青みしゴルフ場
白き乗用車の登りゆく見ゆ
西島 岡林きよ
命だち訪ひしわが実家相生の
桜は繁りて極あ絶ゆ
岡豊町 岩村とよき

南国柳壇

六十路越し孫に誘われ登通い
細くても里の紋あり柳織
三島 井沢正子
老いの身の残り火もやす時のみち
植田 吉本其梅
気晴らしに植えた花木が水ねだる
十市 沢村鶴一
十市 森尾 環

南国俳壇

春眠の漬物石を抱き起こす
父の忌や探し求めて木の芽あえ
除草剤かけて桜の下を過ぐ
古柳髪ととのえて飾りけり
川畔の少し青みて水ぬるむ
木の芽風香る山路や寺めぐり
語り合う二人に土手の暖かし
野良疲れし帰り来るおぼろ道
もてなしの野蒜も国府の里のもの

大島新草

西本かよ子(〽)
池 さち(〽)
山岡多恵(おがたま会)
五百蔵貞女(〽)
川添あき女(〽)
林 広裕(梵鐘句会)
吉川 妙(〽)
高橋以登(〽)